

## 今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 中原 茂明

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■[編集後記](#)

## ■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 中原 茂明

新年にあたりまして、年頭の所感を述べさせていただきます。

昨年は、大震災と電力供給制約、円高、欧州に発した金融不安等、実に様々なことが起き、塩ビ業界にとっても試練の年となりました。今年も、経済情勢の先行きが見通せず、とても樂觀できる状況にはありませんが、被災地域の復興が加速化し、日本全体で早期に元気を取り戻せればと切に願う次第です。

昨年の塩ビ樹脂の内需は、104万トと、ほぼ前年並みの水準になりました。会員企業や需要家でも被災されたところがあり、一時は、品不足などが騒がれたこともありましたが、皆様のご尽力で、緊急支援物資の供給を含め特段の混乱は生じず、比較的速やかに復旧できたのではないかと思います。本格的な復興需要が生じるのはこれからでしょう。しかし、世界的に景気が減速しつつあり、塩ビ事業を巡る環境は引き続き厳しい状況が続くと思います。ちなみに、塩ビの輸出は、円高の影響を受け、年央以降減速し、43万トに留まりました。

このような状況の中、原料ナフサ課税については、税制大綱において、実質的に恒久化する決定がなされたことを歓迎します。我々は、厳しい国際競争の中で戦っております。海外と同じ条件の土俵で戦えるよう、さらに、競争環境を整えていただきたいと思います。また、行き過ぎた円高の是正を強く願う次第です。

ここで、昨年春以降の VEC の活動と塩ビ産業の動向について主要なものを3つほど紹介させていただきます。

一つ目は、震災からの復旧・復興です。冒頭でも申し上げましたが、会員企業および需要家で少なからぬ被災がありました。各企業の尽力により比較的早期に復旧できたのではないかと思います。当初は、輪番停電もあり、塩ビ製品供給不安から、一時は仮需が発



VEC 中原会長

経済産業省  
宮本化学課長

生しましたが、大きな混乱無く、その後市場は落ち着いております。緊急支援物資、仮設住宅部材の供給においては、塩ビ製品業界のみならず、VEC 会員も、関係会社らと供に最大限の協力をさせていただきました。また、厳しい節電要請がありました。生産側としてその責任を果たしました。さらに、建物・住宅部門においては、塩ビを窓枠として使った内窓が、夏期の節電にも寄与しました。復興支援・住宅版エコポイントが発足しましたので、節電、CO2 排出削減、そして復興支援と、樹脂窓が一層の貢献ができると思います。

二つ目は、塩ビ産業とデザイナーが協力して行った「塩ビものづくりコンテスト2011」です。透明性、加工性、デザイン性、機能性等の優れた塩ビの特長を生かし、その可能性を拓くことを目的として、初めて行ったこのコンテストには、331件に及ぶ応募がありました。若手のデザイナーが多数応募し、準大賞を獲得された一人は高校生でした。多くの若い方々の関心を惹きつけることができたことを嬉しく思います。大賞が出なかった理由は、審査委員の方々が、塩ビ製品にもっと高いものを期待されていたからです。今年もコンテストを行います。すばらしい大賞作品が出ることを祈りたいと思います。

三つ目は、リサイクルへの取り組みです。今から5年前、塩ビ産業として、リサイクルに積極的に取り組む姿勢を、リサイクル・ビジョンとして示しました。その一環として、VEC は、塩ビ・リサイクル支援制度を立ち上げました。これまでに、5つの案件が成功裏に終了し、昨年12月には、新たな案件が採択されました。VEC は、当初5年としていたこの制度を継続し、塩ビ・リサイクル技術開発と実用化をさらに進めてまいりますので、皆様のご協力を賜りたくよろしくお願い致します。

最後に、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し年頭の挨拶に代えさせていただきます。

(1月17日開催のVEC 賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

## ■ 年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

昨年は、大震災とそれに引き続く原発事故に加え、資源・燃料価格の変動、欧州に端を発した通貨不安、バンコックの水害など、海外発の事件が我が国にも大きな影響を及ぼし、先の見通しがたちにくい状況が続いています。あらためて震災で尊い命を落とされた方々のご冥福を祈り、復興が一日でも早く進むことを祈る次第です。

今年、我が国の大きな課題は、震災からの復興と、長期的な将来を見据えた国の方向付けを行うことでしょう。世界的には、1992年にリオデジャネイロで開催された、「地球サミット」から20年の節目を迎えます。持続的成長とはなにか、それはどう達成できるのかをあらためて問い直す契機となるでしょう。

持続的な成長を達成するためには、環境・安全問題、経済成長、資源・エネルギー・食料供給など、相互に関連する多面的な問題を連立方程式として解かねばなりません。具体的には、ライフサイクルを意識して資源を有効活用し、リスク評価に基づいてリスク管理するなど、いずれも、もてるリソースの限界を認識し、それを最大限に有効活用することが基本的なアプローチとなります。

昨年12月のエコプロダクツ展では、VEC/JPECのブースは、バイオプラスチック関連のブースと向かい合わせになりました。かたや、長持ちするからこそ環境優位性があるプラスチック、かたや、分解するから環境に優しいというプラスチック。来場者は、バイオプラスチックに軍配をあげたのでしょうか？

そうではありませんでした。50年経っても品質がほとんど変化せず、しかも、管から管へとリサイクルができること、農ビが床材として再生され、十年以上の年月にわたり使用可能なこと、そして、それが更にリサイクルされている実態は、来訪された方々にとって驚きであり、かつ、大変、分かりやすい事例となりました。「要するに適材適所なんですよね！」と言われた来訪者がおられました。まさに、その通りです。環境への意識がより強まり、その理解が深まるにつれ、塩ビの特長を分かってくくださる方が増えるだろうと確信しています。

昨年の「ものづくりコンテスト2011」は、そこに集まったデザインや製品のすばらしさに留まらず、産業界とデザイナーの協力、産学協力、産業間の縦横の協力という意味で、画期的なイベントとなりました。新しいものづくり、それを推し進めるモデルとして、今年は、さらに磨きをかけたいと思います。

厳しい環境にはありますが、皆様にとって、幸多く、登り竜のごとく元気が沸き上がる年となることを祈念し、新年のご挨拶に代えさせていただきます。(了)

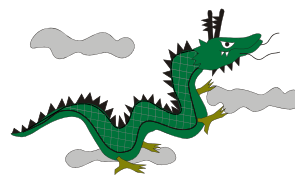
## ■ 編集後記

あけましておめでとうございます。早いもので、1月も半ばを過ぎてしまいました。

昨年は、本当に暗い話が多かった中で“なでしこジャパン”の快挙は忘れることは出来ない、明るい話題でした。今年も、7月にロンドンオリンピックが開催され、連続世界一を期待せざるを得ません。また、大震災の復興元年でもあり、インフラで貢献する塩ビ製品が世の中の不景気を払拭してくれることも期待しています。今年も事務局一同で明るく楽しいメルマガをお届けいたします。お楽しみ下さい。(薩弘)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)